

成福寺の虚空蔵菩薩像

成福寺に安置されている木造虚空蔵菩薩坐像は、鎌倉市指定有形文化財になっています。作風から室町時代の制作と推定され、像内には仏像、神像、銘札、願文など四十六点の品々が納められていて銘札から一六八九年に仏師によって修理されたことが分かります。

虚空蔵菩薩は福德と知恵が無限に内蔵されていて、願いを叶える為に蔵から自在に取り出して救済するという仏様で、中世以降民間にも篤く信仰されるようになりました。

鎌倉市が発行した文献には、元は小袋谷公会堂の辺りにあった吾妻堂に所蔵されていたと記されています。しかし、鎌倉近世史料小袋谷編に収録されている成福寺の住職の方のお話をまとめた「としよりのはなし」の中に、公会堂の辺りに村持ちの虚空蔵堂があったことを古文書で見れるそうですと書かれています。そこで残存している古文書を調べてみますと、虚空蔵堂の名が載っているのを確認できた文書は四点あり、いずれも一七五四年でその関連の内容をまとめると、弁天社の地に虚空蔵堂があったけれど、吾妻社の裏に虚空蔵堂を建立したと書かれています。その後いつ頃かその堂が失われて、虚空蔵菩薩像は吾妻社に移り、そして成福寺に引き取られたようです。